■議員連盟合同による栄養シンポジウム「適切な栄養をすべてのお母さん、子どもたちに！」

■2019年1月25日（衆議院第一議員会館）

■参加者

国会議員、内閣官房、外務省、農林水産省、財務省、国際協力機構（JICA）、国際連合食糧農業機関（FAO）等

■内容

①アフリカ地域では様々な栄養課題が存在し、発育阻害を克服するスピードが遅い。特に紛争地域において顕著である②同地域では母体の貧血が乳幼児の死亡要因になっている一方で小児肥満も増えている③砂糖入り飲料水が生活習慣病の原因になり、加工食品の消費も増えている④人口が急激に増加している⑤パレスチナ難民最大の健康問題は生活習慣病である―といった課題が共有された。参加者から「幼児期の栄養不良問題に注力し280万人の死亡を防ぐ事で経済的な発展が可能となる」との指摘があった。厚生労働省担当者からは「日本は、妊婦・子ども・成人・高齢者全ての各ライフステージで健康施策を行い、世界一の健康寿命を達成してきた。栄養士等の専門職が栄養相談・指導を行い、母子健康手帳で子どもの成長を把握する日本の経験・知見を世界に展開したい」と述べた。